

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	feel小久保Ⅱ		
○保護者評価実施期間	2025年11月10日		～ 2025年11月24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	78	(回答者数) 37
○従業者評価実施期間	2025年11月11日		～ 2025年11月25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子さまの発達状況や強み、支援方法などについて、検査や行動観察から多角的にアセスメントを行ったり、心身の健康状態について注意深く観察することで、一人ひとりに応じた関わり方や教材、学習方法を実践したり、保護者の方にご提案したりすることができた。	保育士や公認心理師、臨床心理士といった専門資格を有する職員が多く在籍しており、専門的な視点から行動観察を行ったり、知能検査等を行ったりするなど、支援するにあたってお子さまのことをよく理解できるよう心がけている。各種心理検査等を活用してアセスメントも行っている。	今後も職員研修やメンター制度等を継続し、職員の資質向上に努めると共に、幅広い外部の研修を受講し、お子さまを深く理解するための視点を養っていく。内部研修等を継続し、お子さまの強みを見つけたり支援方法を考案したりするためのスキルを高めていく。
2	些細なことでも職員に話しやすい関係作りを心がけたり、保護者の方が相談しやすい体制を整備したりすることで、保護者の方から「共感的に支援をされている」「子育てに関する助言等の支援がされている」といった評価をいただいた。	保護者の方のご希望に応じて、定期的または必要に応じた頻度で面談ができる体制を整え、お子さまや保護者の方ご自身に関する相談がしやすいよう人員を配置している。面談の際には、保護者の方の気持ちに寄り添いながら、すぐに試せる具体的な対策方法をご提案できるよう、専門の資格や専門の受験資格を有する職員が担当している。	「カウンセリング以外にも面談の機会があれば嬉しい」とのお声をいただいたため、不定期でもご相談いただけることをお知らせしていく。個別の面談を希望されていない方にも気軽にアクセスしていただけるよう、YouTubeにて子育てのヒントになるような内容を配信している。今後も保護者の方のニーズに合うような配信を継続していく。
3	お友だちとの付き合い方や学校生活で起こりそうな困りごとの対処法、自分の心身の状態について気づいたりコントロールしたりするための心理教育などに関するSSTについて「家庭ではできないため取り組んでもらえてありがたい」といった評価をいただいた。また、ボタンの止め外しやパソコンの操作、レジコンでの作品づくりなど、自立のための力や余暇活動を楽しむためのスキルを高めることができた。	個別療育で取り組む内容については、事前に保護者の方のご要望を伺った上で計画している。また、SSTの学習を行う際には、お子さまに応じてプリント教材、ロールプレイ、動画、クイズなどの教材を使い分けている。日常生活動作について、上着の袖が丸まったまま着ようとするため上手くいかないといったお悩みの方には、実際に衣服を準備して練習するなど、実生活にすぐに役立てられるような支援の方法を意識している。お子さまの「好き」や「やってみたい」の気持ちを大切に、お子さまの好きな活動やご褒美を提供できるように準備を行っている。	今お困りのことを気軽に相談していただくために、話しかけていただきやすい関係作りを心がけていく。また、相談していただいたことをすぐに実践できるようにしていく。学習方法や教材に関する知識の幅を広げていく。また、ご家庭でも取り組める方法を積極的にご提案していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	「放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のお子さまと活動する機会があるか」といった質問に「はい」と回答した方が、保護者の方は73%、職員は100%と差があり、これまでより地域に開かれた事業所の運営と、地域交流イベントを開催したり参加したりした際の周知が必要だと思われる。	昨年度に引き続き、地域の方にご参加いただける秋祭りを実施し、地域のお子さまが参加してくださったが、時間帯によっては交流の機会に恵まれなかったお子さまがいらっしゃった。また、きょうだいが参加できる交流会を企画したが、参加が難しいご家庭もあった。	秋祭りの振り返り、お子さまや保護者の方のご意見をもとに、より多くの方に参加していただいたり、事業所の取り組みについて知っていただいたりできるよう、次回以降の開催方法のあり方を含め、交流の頻度や方法を検討していく。当事業所が行っているイベント等について、より広く知っていただけるように広報を行っていく。
2	「事業所の活動プログラムが固定されないよう工夫されていると思うか」といった質問に「はい」と回答した方が、保護者の方は91.9%、職員は100%と差が見られた。人気のプログラムは1年のうち複数回実施することがあるため、お子さまが楽しめる新しいプログラムを増やす必要がある。また、2021年の開所時からご利用されているお子さまが多く、年齢の幅も広がってきたため、これまで取り組んだことのない活動プログラムや、小学校低学年～中学生・高校生のお子さまが楽しめるよう難易度の調整ができるプログラムを増やす必要がある。	外食イベント時に利用するレストランを変更するなどの工夫を行っているが、事業所での活動について見通しがつきやすくなった反面、普段の小集団療育のプログラムや長期休暇時のイベントに目新しいさを感じにくくなっているお子さまがいらっしゃるかもしれない。	活動の参考となる外部研修の受講を積極的に勤めていく。また、お子さまのやってみたいことを尋ねる機会を増やしたり、所属チーム外に所属する職員にもプログラムのアイデアを募るなどして、プログラムの幅を広げていく。
3	契約書類や運営規定、災害時の対応等について、契約時にお伝えすることが多く、内容が分かりにくかったり、時間が経つと忘れてしまったりする事項が出てくる可能性がある。	必要な事項について契約時に書面を提示しながらお伝えしているが、内容が多く、長期に渡ってご利用いただいている保護者の方にとっては、記憶が薄れてきている事項もあると考えられる。	契約時の説明について、より一層丁寧で分かりやすくなるよう心がけていく。災害時の避難場所といった重要な事項について、ホームページ等で配信している避難訓練の活動報告と併せてお知らせしたり、定期的にご案内を配信したりして、再度周知を徹底していく。また6ヶ月に1回作成している支援計画の中にも記載しているので、しっかりと伝えることを徹底していく。